医療ジャーナリズム・福祉ジャーナリズムで、できること
「なぜ？」という、問いを重ねて

朝日新聞科学部記者⇒科学部デスク⇒論説委員（福祉・医療）

⇒大阪大学大学院ソーシャルサービス論

⇒この大学院で医療福祉ジャーナリズム分野

福祉と医療・現場と政策の志の縁結び係＆小間使い

ゆきさん、こと、大熊由紀子

科学部デスクから、福祉の社説も担当する論説委員になったのは1984年。福祉分野はまったく、素人。

当時の厚生省の最大の課題は、
「西暦2000年、わが国の寝たきり老人は100万人」。手本はない

1985年

↑
日本
「寝たきり老人」呼ばれ
養老院カット

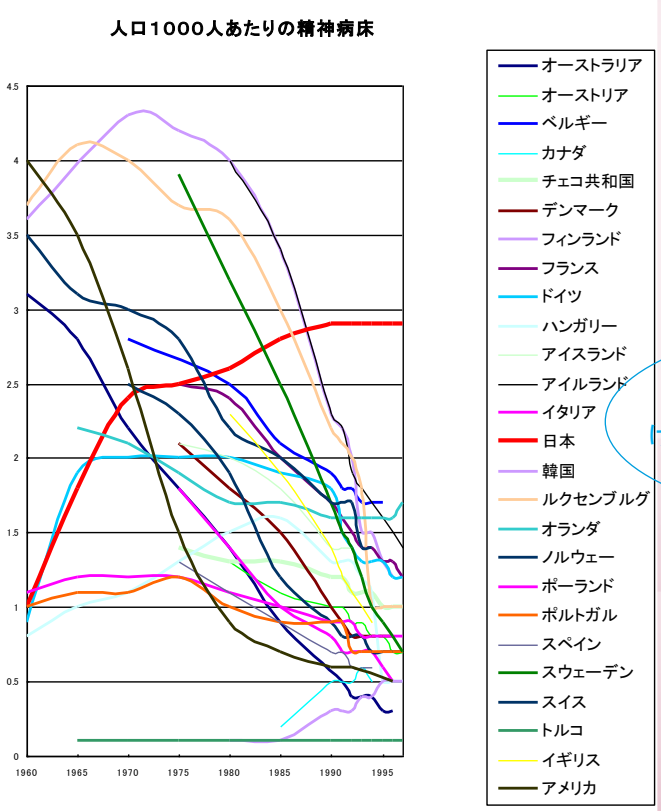
デンマーク
独り暮らしでも自宅で暮らし、
お洒落して外出

「寝たきり老人」という言葉は日本にしかないw(°o°)w なぜ？？

32刷り11万部に

秘密①おむつをしててもお洒落ができる
秘密②ホームヘルパーが朝昼晩現れる
秘密④魔法のランプをこすったときのように
秘密⑤訪問看護婦は名探偵
秘密⑥家庭医という名の専門医
秘密⑦補助器具センターは地下室が凄
秘密⑧〇〇床の施設ではなく〇〇室の

厚生省が精神病院のベッド数の国際比較を出さない
なぜ？



日本の人口は世界の2%足らず
精神科ベッドはOECDの37%
空きベッドに認知症の人を
⇒国際常識の対極にあるもの

その後、厚生労働省はグラフを
横に長くして、差が目立たないように。
けれど、この差はますます開いています（涙）
14ページの本の裏表紙のように

日本の精神病院の身体拘束
人口あたり
アメリカの270倍、
オーストラリアの580倍
ニュージーランドの2000倍

思い出の家具に
囲まれた自分の部屋
←デンマーク

「徘徊するから」
と回廊式にする日本
↓

デメンシァと呼ばれる人々の
異常な行動は
異常な環境と
異常なケアへの
正常な反応なのです

クリスティン・ブライデン
（オーストラリア）

「ノーマライゼーション思想」

生みの父バンクミケルセンさん
反ナチ運動で強制収容所へ
その体験から

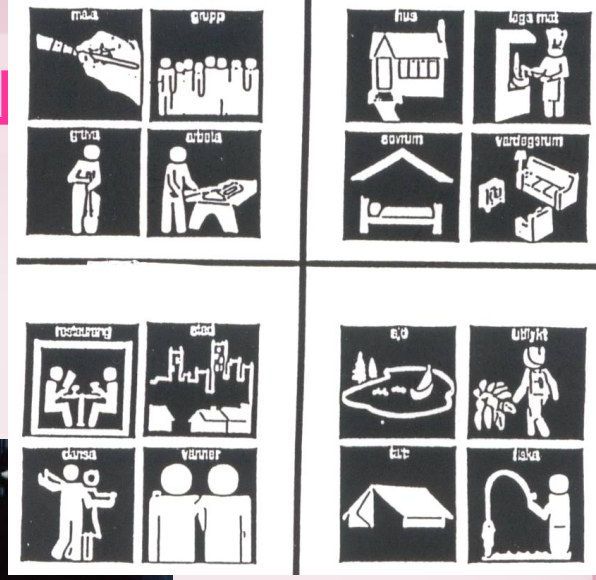
なぜ
このような差が？

どんなに知的なハンディキャップが重くても、

人は街の中のふつうの家でふつうの暮らしを味わう権利があり

社会はその権利を実現する責任がある。

1959年法（デンマーク）



「ふつうの生活とは

ふつうの家
仕事や生きがい
ふつうに余暇
友達・恋人・家族

デンマークで出会った「でんぐりがえしプロジェクト」

当事者が教育や政策づくりに参画

病気や障害を経験した人たちが、教師役をつとめて専門家を教える
右側のクラウスは、人工呼吸器が必要で全介助。仕事をもち、パートナーと暮らす日々を、専門家が自宅を訪ねて学んでいました。

大学院の公開講義で
ユーザーデモクラシー

政策が当事者の身になってつくられているのは、なぜ？。

「究極の自立支援システム」
「オーフス方式」を実現した
ヨーロッパ筋ジストロフィ協会会長の

クローさんの世直し7原則

- グチや泣き言では世の中は変えられな
- 従来の発想を創造的にひっくり返す
- 説得力あるデータにもとづいた提言を
- 市町村の競争心をあおる
- メディア、行政、政治家に仲間をつくる
- 名をすてて実をとる
- 提言はユーモアにつつんで(^_-)-☆

言葉をつくる・言葉を退治する

つくる

コレステロール⇒善玉コレステロール・悪玉コレステロール（健康面で命名）

寝たきり老人⇒「寝かせきり」にされて廃用症候群になった犠牲者（社説で）

退治する

特養待機者 愛煙家 ボランティアの活用・ボランティア派遣

変える

抑制⇒縛る⇒身体拘束

終末期医療⇒（厚生省検討会で）人生最終段階の医療と福祉

⇒人生の最終章（花戸貴司doctorの命名）

まだ、変えられずにいるもの(/o＼)

国民負担率⇒国民連帯率・国民助け合い率

「寝たきり」は「寝かせきり」・1985

厚生科学研究特別研究事業.　1989

介護保険法成立・　1990

介護保険法スタート・　2000

何時の間にか「常識」に(^_-)-☆

コレステロールの種類

HDL コレステロール	善玉コレステロール。組織で余ったコレステロールで、肝臓に戻される。
LDL コレステロール	悪玉コレステロール。各組織の細胞に運ばれ、そこで細胞の構成材料となる。

つなぐのも、ジャーナリズム

週1回の「えにしメール」・年1回の「えにしの集い」・「えにしのHPの51の部屋

「ゆきえにし」で検索してくださると、先頭に (o^^o)

317404

えにしのページ へようこそ。(^^o) (o^^o) (o^^)o

「えにし」の名の由来は、2001年5月、プレスセンターで開いてい
「新たな縁(えにし)を結ぶ会」に遡ります。

一人のジャーナリストと縁があるという、
ただ、それだけの縁で集ってくださった分野の違う方々の間に、
不思議な、新たな縁が結ばれ、広がっていきました。

このホームページが、福祉と医療とまちづくり、
そして、現場と政策の新たな縁結びにつながることを願って、
少しずつ内容を充実してまいります。
時々覗きにきてくださいね(^_-)-☆

ご意見、お便りをお待ちしています。
dzy00573@nifty.com へどうぞ！

大熊由紀子(朝日新聞論説委員室→阪大
→国際医療福祉大学大学院・佛教大学社会福祉学部

~~更新履歴はこちら~~

メニュー

私の社会保障論	2012/05/13
医療福祉と財源の部屋	2010/08/23
高齢福祉政策激動の部屋	2009/05/07
物語・介護保険	2010/09/13
福祉人材／報酬・待遇の部屋	2010/02/18
選んだ場所で誇りをもって	2012/01/30
雑居部屋の部屋	2010/10/24
ホスピスケアの部屋	2006/05/20
福祉の町・秋田県藤里町がつくり上げたもの・失ってしまったもの	2012/02/20

認知症ケアの部屋	2011/09/18
自立生活の部屋	2007/02/02
福祉用具の部屋	2009/12/08
精神医療福祉の部屋	2011/03/28
障害福祉政策・激動の部屋	2006/05/20

インフォームド・コンセントの部屋	2007/07/19
医療費と医療の質の部屋	2012/05/13
たばこの部屋	2009/12/04
くすりの部屋	2009/08/23
医療事故から学ぶ部屋	2011/02/07
患者体験者と遺族に学ぶ部屋	2007/11/20

縁を結ぶ会ことはじめ 2001	2002/02/22
ことしもまた、縁を結ぶ会02～12	2012/05/27
えにし・イン・逢坂	2004/04/03

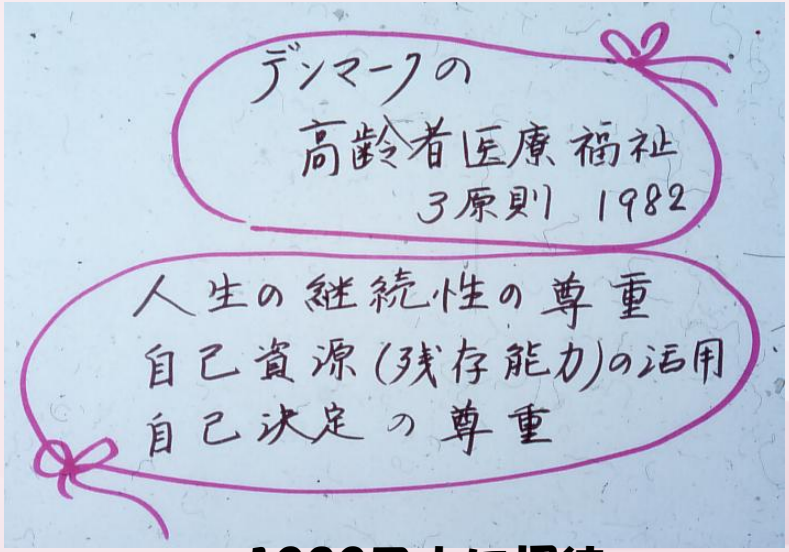
優しき挑戦者の部屋・国内篇	2012/05/02
優しき挑戦者の部屋・海外篇	2011/08/18
感銘した方を応援するために	2012/03/19
世直しの人間科学	2008/02/02
100のチェックポイント	2006/01/02
少子化・子育て・教育の部屋	2009/09/07
千葉・ちいき発	2008/06/23

倫理と変革の部屋	2012/05/27
医療福祉ジャーナリズム分野修士・博士コースへのお誘い	2010/12/19
メディアの部屋	2010/07/05
メディアと冤罪の部屋	2012/02/20
写真帳から(pictures)	2002/01/01
目からウロコのメッセージの部屋	2010/05/16
シンポジウムの部屋	2011/09/05
“秘蔵”な資料の部屋	2005/12/02
障害差別をなくすための海外資料翻訳の部屋	2007/05/13
卒論・修論の部屋	2011/08/18
世界ところかわれば	2010/09/13

ううんじ・えにし	2011/12/31
えにしの本のエッセンス	2011/01/24
ゆきの部屋	2010/05/16
えにしの人々の組織にリンク	2011/01/11
えにしの人々のページにリンク	
お役に立ちそうなリンク	

大臣をつなぐ

日本の戸井田厚生大臣とデンマークのアンデルセン元大臣



1989日本に招待
シンポジウム
「寝かせきりゼロ」を求めて
包括性・継続性・市町村の権限

アンデルセン教授
専門は自治体行政
と経済学
3原則の生みの親
↓
アンデルセン大臣

人と人をつないで変える
ことし第24回になった「新たなえにし」を結ぶ会。
始まりは、新聞記者時代の年賀状

ジャーナリストの「財産」は
さまざまな分野の
聡明で誠実な「家庭教師」たち

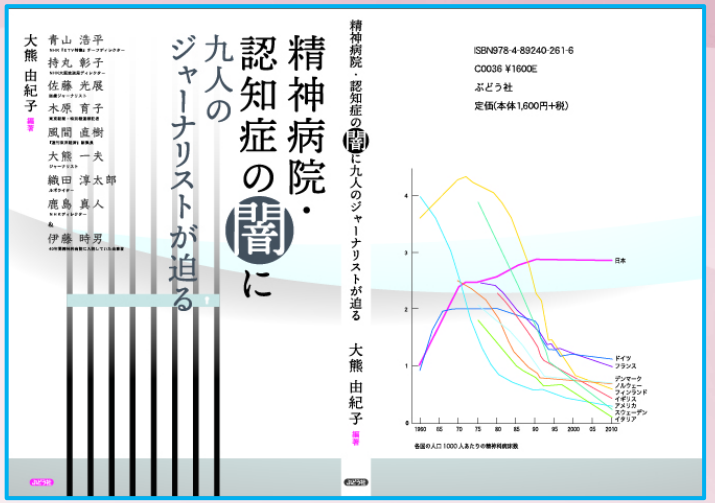
朝日新聞を退職したとき
筆まめ」に6958人
年賀状約3000人

「えにしメール」を受けてくださる方
18国3000人余

「寝たきり老人」のいる国いない国
大熊由紀子
なぜ寝たきりがいないの？

恋するようにボランティアを
大熊由紀子 著

本にする


精神病院・認知症の闇に九人のジャーナリストが迫る
大熊由紀子 編著
青山 浩平
持丸 彰子
佐藤 光展
木原 育子
風間 直樹
大熊 一夫
織田 淳太郎
鹿島 真人
伊藤 時男
ISBN978-4-89240-261-6
C0036 ¥1600E
ぶどう社
定価(本体1,600円+税)
日本
ドイツ
フランス
デンマーク
ノルウェー
フィンランド
イギリス
アメリカ
スウェーデン
イタリア

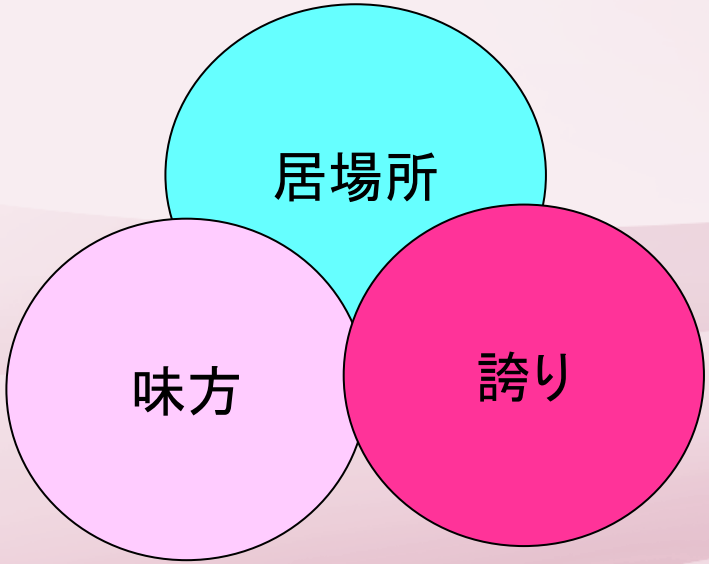
物語 上
介護保険
いのちの尊厳のための
70のドラマ
大熊由紀子
岩波書店

下 物語
介護保険
いのちの尊厳のための
70のドラマ
大熊由紀子
岩波書店

福祉が変わる
医療が変わる
日本を変えようとした
70の社説+α
朝日新聞論説委員室
＋大熊由紀子
いま、社説がドラマチック！

誇り・味方・居場所
私の社会保障論
大熊由紀子
日本最高の福祉医療ジャーナリストが
書き続けた珠玉の提言！

医療福祉ジャーナリズムが、
本来の使命をはたすために大切なのは

虫の目・鳥の目・歴史の目・疑う（サイエンスの）目

そして、想像力と度胸